

100周年記念講演会がスタートしました

まずはバトラー(発表者)の登場です。
トップバッターは、本校卒業生で、現在大学4年の豊住さんです。



午前の記念式典同様、
生徒が司会を務めました。



放送部1年の
下田さんです。
メリハリのある落ち着いた
アナウンスを披露して
くれました。

ここで、豊住さんの紹介をします。

豊住さんは、大津高校在学時（高校3年生の時）に
全国高等学校ビブリオバトル熊本県大会に出場し、
辻村深月作『鏡の孤城』を紹介して

見事**優勝**を果たしました。

栄えある**大津高校初のチャンピオン**です。

と云うことで、当時のビブリオバトルを披露してもらうことになりました。

私事ですが、豊住さんとは国語の授業を通して3年間接してきました。当時から抜群の文章力と思慮深さは傑出していました。

辻村さんの作品をまったく読んでいなかった私の脳裏にも『鏡の孤城』は深く刻まれました。

豊住さんは会場の後輩たちに向かってやさしく問いかけました。

皆さん、学校は好きですか？ 学校が好きな人、嫌いな人どちらもいると思います。私は学校に行くより家の方が好きでした。当時の私にとって安心できる居場所は学校ではなく家だったのです。

そんな私が今回この本を紹介します。

辻村深月さんの「かがみの孤城」。

この本は居場所を無くし、生きづらさを抱えた7人と不思議な城の物語です。

(この後、あらすじの紹介がありました)

私がこの本を皆さんにお薦めしたいと思った理由が大きく二つあります。

先ず一つ目は不思議な城というファンタジー要素と登場人物の繊細な内面が絶妙なバランスで描かれているところです。突然、自分の部屋の鏡が光って不思議な城に招待される。そして願いが叶う鍵探しをしてもらう、

と言われたら、何だかドキドキワクワクしてきませんか。

ここまで聞くとファンタジー系のお話のように聞こえますが、それはこの物語を彩る一部分です。

もう一つの見どころは、不登校や生きづらさを抱えた登場人物の内面だと私は考えます。城に集められた7人は、どこにでもいる普通の子供に見えました。

しかし、実は彼らは一人一人、心に傷を抱えていたのです。学校や家に居場所が無い。自分を大切にしてくれる人はいないのではないか、そんなそれぞれ違った辛い現実を生きている7人なのです。似たような境遇の7人が不思議な城での日々を通じて、少しずつ距離を縮めていく様子や時には衝突する姿など、等身大の子供たちの姿にぜひ触れて頂きたいと思います。

2つ目は作者の辻村先生が10代の少年少女の心情を繊細に表現しているところです。

読んでいて思わず胸が苦しくなってしまうような人間関係のいざこざや、すれ違い。それだけでなく時には心が温かくなるような優しさが詰め込まれていました。誰もが経験した事のある青春時代特有の胸の痛みや苦しみ、友情や恋愛といった輝きが自然に思い起こされます。学生の皆さんはもちろん、大人の皆さんも今の自分や、あの頃の自分と重ね合わせて物語を読み進めることができます。私はこの本を読んで生きる勇気、前に進む勇気をもらいました。この本には様々なものを抱えて生きている全ての人を包み込む温かさがあります。

「辛いことが多い現実を、生きて！ あなたは一人じゃない。私たちは助け合える！」と、力強いメッセージを伝えてくれるのです。「皆みたいに上手くできなくて、同じになれない、普通になれない、それでもあなたはあなたのままでいい、あなたには生きていて欲しい！」と優しく包み込んでくれます。



本を片手に落ち着いた口調で
後輩たちに語りかける豊住さん

さて、物語の最後には怒濤の勢いで全ての謎が明らかになっていきます。

どうして7人は城に集められたのか。オオカミさまの正体とは。そして願いを叶える権利を得たのは誰なのか。

あなたはそれを知った時何を思うでしょうか。きっと心を揺さぶる何かがあるはずです。どうぞ皆さん読んでみてください。

以上が豊住さんの発表です。何はともあれ、高校生の時の文章力に驚かされます。豊住さんは命に関する作文でも文部科学大臣賞を受賞しています。

ぜひ、手に取って表紙を開いてみてください『鏡の孤城』を！豊住さんの語る世界がそのまま広がっています。

還暦前の私でも最後のシーンではページをめくる指が止まりませんでした。

